



ファームウェアバージョン:	R2.25.B025	
ハードウェアバージョン:	DGS-3630-28SC	A1/A2
	DGS-3630-28TC	A1/A2
	DGS-3630-52TC	A1/A2
	DGS-3630-28PC	A2
	DGS-3630-52PC	A2
発行日:	2021/6/22	

本リリースノートには、D-Link 製スイッチのファームウェア更新に関する重要な情報が含まれています。ご使用のスイッチに対応するリリースノートであることを確認してください。

- 新しいスイッチにインストールを行う際には、デバイス上のハードウェアバージョンの表示を確認し、ご使用のスイッチがファームウェアのシステム要件を満たしていることを確認してください。ファームウェアとハードウェアの互換性についての詳細情報は、“変更履歴とシステム要件”の項を参照してください。
- 新しくリリースされたファームウェアへのアップグレードを行う場合は、“アップグレード手順”の項を参照しながら正しい手順でファームウェアのアップグレードを行ってください。

スイッチ本体に関する詳細な情報が必要な場合は“ユーザマニュアル”を参照してください。

目次：

変更履歴とシステム要件：	2
アップグレード手順：	2
CLI (シリアルポート) を使用したアップグレード	2
Web GUI を使用したアップグレード	5
追加機能：	8
MIB および D-View モジュールの変更点：	8
コマンドラインインタフェースの変更点：	9
修正した問題点：	10
既知の問題：	11

変更履歴とシステム要件 :

ファームウェアバージョン	リリース日付	モデル	ハードウェアバージョン
ランタイム : R2.25.B025	2021/6/22	DGS-3630-28SC	A1/A2
		DGS-3630-28TC	A1/A2
		DGS-3630-52TC	A1/A2
		DGS-3630-28PC	A2
		DGS-3630-52PC	A2

注意 :

- **A1を含む全てのハードウェアバージョンの製品について、R2.00.xxx以上のファームウェアを使用しているもしくは一度R2.00.xxx以上のファームウェアにアップグレードしたデバイスを、R1.00.060を含むすべてのR1.00.xxxバージョンへダウングレードしてお使いになることはできません。**

また、Bootloaderバージョンが2.00.002以上のものをお使いの場合にも、すべてのR1.00.xxxにダウングレードすることはできませんので十分にご注意ください。(お使いのファームウェアバージョン、Bootloaderバージョンは、「show version」コマンドでご確認いただけます)

必ず2.10.B022以上のファームウェアのままお使いください。ダウングレードした場合、正常に起動・動作することができなくなります。

- **R2.10.022またはそれ以前のファームウェアバージョンからアップグレードする場合の制限事項**
 - パスワードの暗号化を有効にし、SNMPのコミュニティ、グループ、トラップ受信ホストの追加を設定している場合、アップグレード後にそれらを再度手動で追加する必要があります。

アップグレード手順 :

アップグレードを行うには、CLI(シリアルポート)を使用する、もしくは Web GUI から行うことができます。

CLI (シリアルポート) を使用したアップグレード

1. スイッチの RS-232 シリアルポート (コンソールポート) と PC を接続し、ターミナルソフトウェアを起動します。ターミナルソフトウェアの設定は下記の通りです。(本手順書ではターミナルソフトウェアは Tera Term を使用しています。)

- ボーレート : **115200**
- データビット : **8**
- パリティ : **none**
- ストップビット : **1**
- フロー制御 : **none**



2. 接続が正常に行われると、ユーザ名とパスワードの入力を求められます。管理者のユーザ名及びパスワードは、初期状態では登録されていないので「enter」キー1回を押し、ログインします。

3. ログイン後は下記のコマンドを使用し、ファームウェアのアップデートを行います。

コマンド	説明
enable	特権レベルに移行します。
configure terminal	グローバルコンフィグモードに入ります。
exit	現在のコンフィグモードを終了し、最後に使用したモードに戻ります。
copy tftp: //LOCATION/SOURCE-URL flash: PATH-FILE-NAME	スイッチにファームウェアをダウンロードします。
boot image	次回の起動時にイメージファイルとして使用されるファイルを指定します。
show boot	現在のブートイメージと設定ファイル名を表示します。
reboot	スイッチをリブートします。
show version	スイッチのバージョンを表示します。

以下の例を参考にファームウェアのアップデートを行ってください。

例:

(1) スwitchにファームウェアをダウンロードします。

```
Switch>enable
```

```
Switch#copy tftp: //10.90.90.100/DGS3630_Ax_FW2_25_B025.had flash:
DGS3630_Ax_FW2_25_B025.had
```

```
Address of remote host [10.90.90.100]?
```

```
Source filename [DGS3630_Ax_FW2_25_B025.had]?
```

```
Destination filename DGS3630_Ax_FW2_25_B025.had]?
```

```
Accessing tftp://10.90.90.100/DGS3630_Ax_FW2_25_B025.had...
```

```
Transmission start..
```

```
Transmission finished, file length 15081740 bytes.
```

```
Please wait, programming flash..... Done.
```

(2) ブートイメージを指定します。

```
Switch#  
Switch#configure terminal  
Switch(config)#boot image DGS3630_Ax_FW2_25_B025.had  
Switch(config)#exit  
Switch#show boot
```

Unit 1

```
Boot image: /c:/ boot image DGS3630_Ax_FW2_25_B025.had  
Boot config: /c:/config.cfg
```

(3) スイッチを再起動します。

```
Switch#reboot  
Are you sure you want to proceed with the system reboot?(y/n) y  
Please wait, the switch is rebooting...
```

注意：

スイッチのアップグレード中及び再起動中に、電源を切らないでください。電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。

(4) バージョンがアップグレードされていることを確認します。

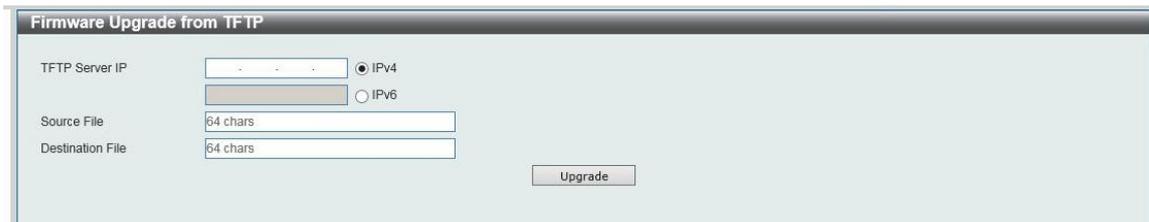
```
Switch>show version  
System MAC Address: xx- xx - xx - xx - xx - xx
```

Unit ID	Module Name	Versions
1	DGS-3630-28SC	H/W:A1 Bootloader:1.00.007 Runtime: 2.25.B025

```
Switch>
```

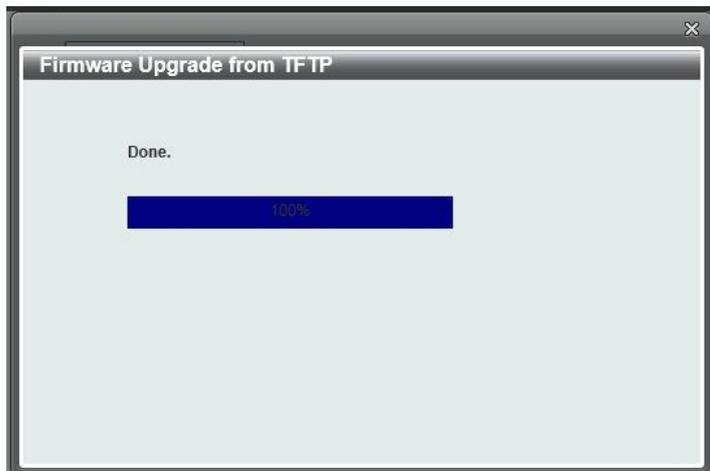
Web GUI を使用したアップグレード

1. Java SE runtime environment をダウンロードして、お客様の PC にインストールします。
2. システムの IP アドレスを指定してスイッチにアクセスします。デフォルトのシステム IP アドレスは 10.90.90.90 です。
3. PC 上で TFTP サーバを有効にします。(必ずご使用の PC に TFTP サーバのインストールを行っておいてください。)
4. お客様の PC から RJ45 ネットワークケーブル経由でスイッチにアクセスできることを確認し、Web 管理画面からログインしてください。
「User Name」(管理者のユーザ名)と「Password」(パスワード)は、初期状態では登録されていません。「空白」でログインを行ってください。
5. スイッチのファームウェア更新を行うには、**Tools > Firmware Upgrade & Backup > Firmware Upgrade from TFTP** の順にクリックし、必要な情報を入力後、「Upgrade」ボタンをクリックします。



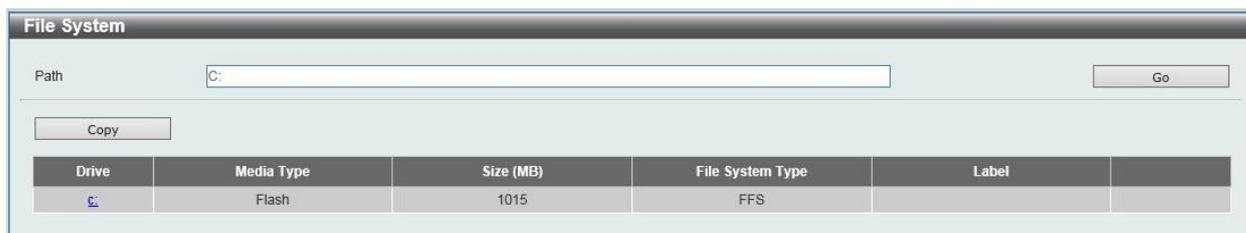
- TFTP Server IP: IPv4 もしくは IPv6 を選択し、TFTP サーバの IP アドレスを入力します。
- Source File : TFTP サーバ上に保存したダウンロード済みのファームウェアファイル名を入力します
- Destination File : フラッシュドライブにファームウェアをロードするために、パスとファイル名を入力します。(例 : c:/DGS3630_Ax_FW2_25_B025.had)

6. ステータス画面が表示されます。「Done.」(完了)ステータスを確認後、本画面を閉じます。

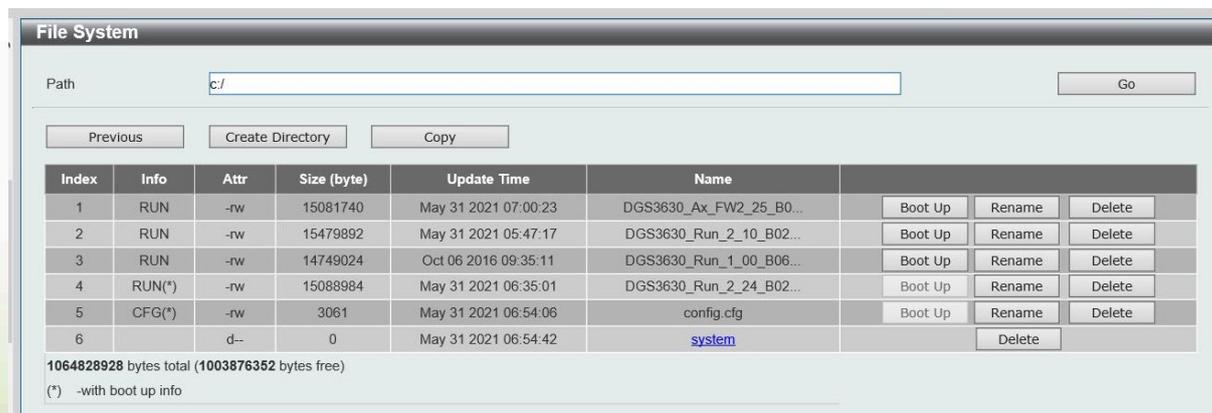


注意：ファームウェアのダウンロード中およびスイッチの再起動中に、電源を切らないでください。電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。

7. 次回のスイッチリブート時にブートアップを行うイメージが選択するために、**Management > File System** の順にクリックします。



8. Drive 欄の C: をクリックします。
 9. 該当するイメージの行にある「Boot Up」ボタンをクリックし、ブートアップファイルとして設定します。



※Info 欄の * は、現在ブートアップファイルに指定されていることを表します。

10. ブートファイルの指定に成功すると「Success」と表示されるので、画面の「OK」をクリックします。
11. スイッチのリポートを行います。リポートを行うには、**Tools > Reboot System** をクリックします。



12. 「Reboot」 ボタンをクリック後、「Are you want to reboot?」 と表示されるので「OK」 ボタンをクリックし、スイッチを再起動してください。



注意：スイッチの再起動中に、電源を切らないでください。再起動中に電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。

13. システムの再起動後にログインし、ファームウェアのバージョンがアップグレードされていることを確認します。

追加機能：

ファームウェアバージョン	変更点
R2.25.B025	<ol style="list-style-type: none"> 1. CPU プロテクトのプロトコルタイプに MPLS エコー要求を追加致しました。 2. ACL ログをサポート致しました。(CLI のみ) 3. CPU ACL ログをサポート致しました。 4. スタック構成において、再起動時のユニットの指定に対応致しました。 5. OSPFv3/BGP4 の BFD 機能をサポート致しました。 6. UNI ポートのアウタータグ削除をサポート致しました。 7. HOL の有効/無効を WEB でサポート致しました。 8. LACP で合計帯域幅の表示をサポート致しました。 9. JWAC を正式にサポート致しました。 10. IPv6 デバイスのモニタをサポート致しました。 11. IP MTU 及び IPv6 MTU の上限を 12K に更新致しました。 12. LACP における indep 項目の表示を削除致しました。 13. DHCPv6 PD サーバの PD サブネットについて、スタティックルートの自動生成をサポート致しました。 14. MVRP 802.1ak MVRP 機能をサポート致しました。 15. DHCP アドレスプールで拡張マニュアルバインディングをサポート致しました。

MIB および D-View モジュールの変更点：

ファームウェアバージョン	MIB ファイル	変更点
R2.25.B025	DLINKSW-CPU-PROTECT-MIB	CPU プロテクトのプロトコルタイプに MPLS エコー要求を追加致しました。
	DLINKSW-REBOOT-MIB	スタック構成において、再起動時のユニットの指定に対応致しました。
	DLINKSW-OSPFV3-MIB	OSPFv3/BGP4 の BFD 機能をサポート致しました。
	DLINKSW-BGP-MIB	
	DLINKSW-VLAN-TUNNEL-MIB	UNI ポートのアウタータグ削除をサポート致しました。
	DLINKSW-AAA-SERVER-MIB	RADIUS Filter Rule Attribute に対応致しました。
	DLINKSW-ND-INSPECT-MIB	IPv6 ND Inspection で Precise モードと Fuzzy モードをサポート致しました。
	DLINKSW-IPV6-SNOOPING-MIB	PD スヌーピングのエントリに対する No Limit オプションに対応致しました。
	DLINKSW-L2PT-MIB	L2PT パケットの、同じ VLAN の NNI ポートへの転送をサポート致しました。
	DLINKSW-CONTROLLER-MIB	HOL の有効/無効をサポート致しました。
	IF-MIB	LACP で合計帯域幅の表示をサポート致しました。
	DLINKSW-NETWORK-ACCESS-MIB	RADIUS CoA をサポート致しました。
	DLINKSW-OSPFV2-MIB	RFC1583 をサポート致しました。

DLINKSW-NETWORK-ACCESS-MIB	RADIUS サーバから配信されたダイナミック ACL エントリの表示をサポート致しました。
DLINKSW-JWAC-MIB	JWAC をサポート致しました。
DLINKSW-VOICE-VLAN-MIB	事前に定義された Voice VLAN の OUI の削除をサポート致しました。
DLINKSW-SSH-CLIENT-MIB	SSH クライアントをサポート致しました。
DLINKSW-DHCP-SERVER-MIB	DHCP サーバ除外アドレス設定で、除外できるアドレス数を 50 までに変更致しました。
DLINKSW-IPV6-DEVICE-MONITOR-MIB	IPv6 デバイスのモニタをサポート致しました。
DLINKSW-IP-EXT-MIB	IP MTU 及び IPv6 MTU の上限を 12K に更新致しました。
IP-FORWARD-MIB	DHCPv6 PD サーバの PD サブネットについて、スタティックルートの自動生成をサポート致しました。
DLINKSW-IP-EXT-MIB	VRF-ARP テーブルをサポート致しました。
DLINKSW-MVRP-MIB	MVRP 802.1ak MVRP 機能をサポート致しました。
IEEE8021-Q-BRIDGE-MIB	
IEEE8021-BRIDGE-MIB	
DLINKSW-DHCP-SERVER-MIB	DHCP アドレスプールで拡張マニュアルバインディングをサポート致しました。

コマンドラインインタフェースの変更点：

ファームウェアバージョン	変更点
R2.25.B025	<ol style="list-style-type: none"> cpu-protect type コマンドで mpls-ping-request オプションに対応致しました。 ACL ログをサポート致しました。 <ul style="list-style-type: none"> debug acl_log access-list <1-14999> sequence-number <1-65535> no debug acl_log access-list <1-14999> sequence-number <1-65535> debug acl_log show reboot コマンドで unit オプションに対応致しました。 OSPFv3/BGP4 の BFD 機能をサポート致しました。 <ul style="list-style-type: none"> neighbor { IP-ADDRESS IPV6-ADDRESS PEER-GROUP-NAME } fall-over bfd no neighbor { IP-ADDRESS IPV6-ADDRESS PEER-GROUP-NAME } fall-over bfd ipv6 ospf bfd no ipv6 ospf bfd UNI ポートのアウタータグ削除をサポート致しました。 <ul style="list-style-type: none"> dot1q-tunnel ignore strip-outer-tag no dot1q-tunnel ignore strip-outer-tag show interface port-channel コマンドで Bandwidth の表示に対応致しました。 IPv6 デバイスのモニタをサポート致しました。 <ul style="list-style-type: none"> ipv6 device-monitor { ip6addr IPV6-ADDRESS [INTERFACE-ID] state {enable disable} interval SECONDS timeout SECONDS retry NUMBER neighbor-cache { clear-all clear-tartget}} no ipv6 device-monitor [{ip6addr IPV6-ADDRESS interval timeout retry neighbor-cache }]

	<ul style="list-style-type: none"> ● show ipv6 device-monitor <p>8. show channel-group channel detail コマンドで indep 項目の表示を削除致しました。</p> <p>9. DHCPv6 PD サーバの PD サブネットについて、スタティックルートの自動生成をサポート致しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● distance [vrf VRF-NAME] pd DISTANCE ● no distance [vrf VRF-NAME] pd <p>10. MVRP 802.1ak MVRP 機能をサポート致しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● mvrp global <li style="padding-left: 20px;">no mvrp global ● mvrp enable <li style="padding-left: 20px;">no mvrp enable ● mvrp registration {normal fixed forbidden} <li style="padding-left: 20px;">no mvrp registration ● mvrp restricted registration <li style="padding-left: 20px;">no mvrp restricted registration ● mvrp timer [join TIMER-VALUE] [leave TIMER-VALUE] [leave-all TIMER-VALUE] <li style="padding-left: 20px;">no mvrp timer [join] [leave] [leave-all] ● show mvrp configuration [interface [INTERFACE-ID [, -]]] ● show mvrp statistics [interface INTERFACE-ID [, -]] ● clear mvrp statistics {all interface INTERFACE-ID [, -]} <p>11. DHCP アドレスプールで拡張マニュアルバインディングをサポート致しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● manual-binding {IP-ADDRESS MASK IP-ADDRESS/PREFIX-LENGTH} {HARDWARE-ADDRESS CLIENT-IDENTIFIER} <li style="padding-left: 20px;">no manual-binding {IP-ADDRESS MASK IP-ADDRESS/PREFIX-LENGTH}
--	--

修正した問題点 :

ファームウェアバージョン	修正した問題点
R2.25.B025	<ol style="list-style-type: none"> 1. システム再起動後に DHCP サーバ機能が IP アドレスを払い出さないことがある問題を修正致しました。 2. ストームコントロールにおいて Current の PPS が瞬時値ではなく累計となる問題を修正致しました。 3. スタックを再構成する際にマスタが変更されると、マスタ配下に接続された端末から L3SW の GW 宛の trace が応答なくなる問題を修正致しました。 4. パスワードの暗号化を有効にし、SNMP のコミュニティ、グループ、トラップ受信ホストを設定している場合、アップグレード後に設定が削除される問題を修正致しました。 5. 切り替えバックアップマスタにおけるトレーズルートの実行でタイムアウトが発生する問題を修正致しました。 6. OSPF を使用する構成においてスタックを再起動した場合に、OSPF が確立できない問題を修正致しました。 7. no jwac authenticate-page language コマンドの実行により再起動する問題を修正致しました。 8. no storm uni コマンドによる初期化が不完全な問題を修正致しました。 9. copy log tftp:コマンド実行において、Stack Slave の Log の改行前に 0x00 が挿入さ

	<p>れる問題を修正致しました。</p> <p>10. copy log sftp: コマンド実行において、Stack Slave の Log の改行前に 0x00 が挿入される問題を修正致しました。</p> <p>11. copy log rcp: コマンド実行において、Stack Slave の Log の改行前に 0x00 が挿入される問題を修正致しました。</p> <p>12. ループバック検知を VLAN モードで使用した場合、CTP の送信間隔が不正となる問題を修正致しました。</p> <p>13. MAC 認証機能において、再認証に際し認証されなくなる問題を修正致しました。</p> <p>14. スタック構成において Mgmt Interface の IP アドレスを 0.0.0.0 に設定している場合、スタックのマスタの交代時に正しく状態が引き継がれない問題を修正致しました。</p> <p>15. BGP 処理の再配布における不具合により、スレーブユニットがメモリ不足で再起動することがある問題を修正致しました。</p> <p>16. VRF-Lite において、DHCP リレーを併用した場合に、DHCP サーバからの戻りのパケットが、リレー元の対象 Vlan のほか、Global の経路に従ってルーティングされる問題を修正致しました。</p> <p>17. MAC 認証機能において、エイジングアウト後に一部のスタティック MAC エントリが残る問題を修正致しました。</p> <p>18. ポートチャネルにおけるループバック検知の動作について、対応する物理インタフェースの VLAN 設定の影響を受けて動作が停止する問題を修正致しました。</p> <p>19. システムの再起動後、MPLS トンネルがダウン状態となる問題を修正致しました。</p> <p>20. VPLS トンネル構成において、通信が不可となる場合がある問題を修正致しました。</p> <p>21. SNMP 経由での Super VLAN 設定において、サブ VLAN を追加した場合、別のサブ VLAN のサブ VLAN アドレス範囲が削除される問題を修正致しました。</p> <p>22. DHCP スヌーピングのバインディングエントリが最大の場合、Expiry 時間が不正となる問題を修正致しました。</p> <p>23. show running-config interface コマンドで一部の設定情報が表示されない問題を修正致しました。</p> <p>24. copy sftp: running-config コマンド実行時に誤った警告メッセージが表示される問題を修正致しました。</p>
--	---

既知の問題：

ファームウェアバージョン	既知の問題
R2.25.B025	<p>1. copy running-config ftp: コマンドにおいて、DGS-3630 が IDENT を破棄するために異常終了する問題。 対処方法：以下のコマンドの適用と確認を行ってください。</p> <pre>Switch#configure terminal Switch(config)#no network-protocol-port protect tcp Switch(config)#end Switch#show network-protocol-port protect TCP Port protect state: Disabled UDP Port protect state: Enabled</pre> <p>2. MSTP 機能において、instance vlans が 512 で分割して表示される問題。(制限事項)</p> <p>3. R1.00.B060 と R2.10.022 以降のファームウェアバージョン間のコンフィグ互換性</p>

の問題。(制限事項)

(1) R1.00.B060 から R2.10.022 以降のバージョンへの設定の引継ぎは可能
(アップグレード及びリストア)

(2) R2.10.022 以降のバージョンから R1.00.B060 へ設定引継ぎは不可
(リストア)

※R2.10.022 以降のバージョンにアップグレードしたデバイスを、R1.00.060 にダウングレードすることはできません。

4. Vlan Interface を経由して Mgmt 0 の IP address 宛に通信を行う事が出来ない問題。(制限事項)
5. Chipset limitation により、10Mbps/Half Duplex で Link Up しない問題。(制限事項)
6. 10G での auto-negotiation 情報を表示できない問題。(制限事項)
7. 10G ポートでの auto-downgrade をサポートしない問題。(制限事項)
8. MPLS が無効な Connected 経路は MPLS table に載せることは出来ない問題。(制限事項)
9. Cable Diagnostic を実行すると、対象の Port において Link Down を伴う問題。(制限事項)
10. IGMP Snooping において Querier Emulation をご利用の環境で、Specific Query の間隔が設定値より短くなる問題。(制限事項)
11. DEM-431XT-DD/A1 をご利用の場合に、"TX power high warning threshold exceeded" の log が記録される問題。(制限事項)

対処方法：規定値から下記の値に変更してください。

```
Switch(config)#transceiver-monitoring tx-power ethernet 1/0/25 high alarm dbm 0
Switch(config)#transceiver-monitoring tx-power ethernet 1/0/25 high warning dbm -1
```

WARNING: A closest value 0.7943 is chosen according to the transceiver-monitoring precision definition.

12. NTP Server の機能について、経路に従ってソース IP が決定されるため、構成によりクライアントが同期に失敗する可能性がある問題。(制限事項)
13. L3/L4 系の Hash を利用する場合でも、FDB(MAC Address Table)にエントリが無い、または Flooding 対象の場合は MAC Hash が利用される問題。(制限事項)
14. Link Trap を有効にした場合、同時に LAG の Link Trap も有効になる問題。
15. PBR と STP (RST/MST を含む)、ERPS など L2 Loop free protocol と併用した際に、Discarding Port においても対象トラフィックを転送する問題。(制限事項)
16. DHCPv6 Server において、Connected の IPv6 Prefix 以外への Lease が機能しない問題。(制限事項)
17. DHCP Relay が有効な場合、DISCOVER パケットが対象 VLAN 内にフラッディングされない問題。(制限事項)
18. Storm Control の機能において、Multicast を指定した場合、IPv4、IPv6 の予約 MAC アドレス (VRRP、OSPF、IGMP、MLD など) に対して制限が適用されない問題。(制限事項)
19. Storm Control の機能において、storm-control unicast level 0 指定時、Unknown Unicast は Src MAC 未学習時にフラッディング、学習後は破棄される問題。(制限事項)
20. loopback internal mac、phy について、以下の機能と競合する問題。(制限事項)
 - (1) STP
 - (2) loopback-detection
 - (3) Mirror
 - (4) Channel

Copyright 2006-2021 D-Link Japan K.K.